

## 一 般 質 問 通 告 書

令和 02 年 08 月 25 日

阿見町議会議員 久保谷 充 様

阿見町議会議員 海野 隆 印

令和 2 年第 3 回阿見町議会定例会において、次の事項について質問したいので通知します。

質問事項	質問の要旨	答弁者
1、今後想定される新型コロナウイルス感染症第3波に向けた課題及び対応について	<p>最近の新型コロナウイルス感染症をめぐる状況は、専門家によれば3～4月にかけての第1波の流行に続き、7月下旬からの第2波の流行であると言われております。今後、秋から冬にかけての第3波の流行も予想されており、終息までには長い期間が掛かると予想されています。</p> <p>現在も、医療の現場では、熱中症症状との判別の困難さがあり、重症者の増加も見られているなど予断を許さない状況である。秋から冬にかけては、例年流行する風邪やインフルエンザの流行もあり、さらに警戒を要するものと思われま</p> <p>茨城県では、3月17日にイタリア出張から帰国したひたちなか市の社員が第1例目として感染が確認されてから、これまでに（8月23日現在）累計503名が感染し、11人が死亡しています。退院及び退所、回復者等は403名となりました。</p> <p>阿見町では、3月19日に県内第3例目として海外旅行から帰国した社員の方が感染症と確認されました。その後、4月6日及び19日にもそれぞれ1名が確認されました。その後の感染確認はありませんでしたが、第2波では8月14、17日にそれぞれ1人の確認があり、累計で5名となっています。</p> <p>阿見町内では、第1波でも、第2波でも、1人の感染者から複数の人に感染が広がるクラスターの状況は発生することなく、家族内での感染もありませんでした。感染症拡大防止のために、国及び県の指針に沿いながら阿見町も様々な対策を取ってきました。新しい生活様式などの町民への呼びかけ、学校での対応や学童、保育所、幼稚園などの教育・保育の現場での対応、地域経済対策、定額特別給付金の支給など、課題はあったものの着実な対応だったと思われま</p> <p>一方、第1波の当初では、特に情報発信や伝達等の面で町民の不安に応え切れていない、という評価がありました。その後、防災無線やインターネットを活用して町長が前面に出るなど、さまざまな改善がありました。</p> <p>そこで、今後想定される第3波に向けた対応について以下の質問をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、今回の新型コロナウイルス感染症対策の主管課だった健康づくり課では、日常業務を行いながらの対応で業務遂行に大きな影響があったと思われる。第2波及び第3波での対応や課題について及び電話、窓口、インターネットなどでの相談件数及びクレームや情報提供など相談内容について</li> <li>2、今回の経験から、町民が安心して働き続けるには、役場機能や保育、学童、医療、福祉施設等が持続的に機能することが重要であり、従来の3密対策や消毒の徹底に止まらず、医療体制や検査体制の確立が重要であることが分かった。阿見町を含む当該医療圏の医療体制及び検査体制整備の現状と対策について</li> <li>3、役場職員の在宅勤務の実施で感染防止と業務継続を図った成果と今後の課題について及び役場内の決裁及び町民窓口でのハンコ文化の廃止について</li> <li>4、熱中症や新型コロナウイルス感染症での発信で活用されている防災行政無線放送の受信点検結果及び個別受信器の設置について</li> <li>5、危機的な事態では、防災及び減災の専門家、医療や防疫の専門家からの助言が欠かせない。対策本部とは異なる日常的な制度として助言や評価を行う各分野のアドバイザリーボードの設置の必要性について</li> <li>6、今後想定される第3波に向けた総括的な課題と対応について</li> </ol>	町長

<p>2、小規模特認校・君原小学校の現状について</p>	<p>地域に学校を残したいという住民や保護者の要望や意向を受け止めて、君原小学校は今年度から小規模特認校としてスタートしました。小規模特認校は、阿見町で唯一、町内のどこからでも通学できる小学校として、少人数での教育の良さを活かした、特色ある教育ときめ細かな指導が行なわれる計画です。</p> <p>児童募集のパンフレットを見ましたが、1、教師が一人一人の理解状況を把握できることから、その子に応じた指導、2、児童数が少ないことから、理科・音楽・体育・ICT教育など学習機材や運動器具に目で見て手で触れる機会が充実、3、低学年から外国語活動を行い、語学力とコミュニケーション能力を高める、という少人数教育の良さを活かした、きめ細かな指導を行うとありました。その他、地域に根差した、ポニー牧場でのふれあい体験、低学年からの外国語学習、自然体験や郷土芸能継承などなど、関心を引くプログラムが並んでいました。</p> <p>私は、今年の2月に、「奇跡の小学校の物語」という映画を自主上映しました。映画の舞台となった宇都宮市立城山西小学校は、2005年（平成17年）度から、宇都宮市全域からの児童の通学を可能とする小規模特認校として新たなスタートを切り、特色ある教育活動を展開しています。城山西小学校は、1876年（明治8年）に創立されました。144年の歴史を刻んだ、古くからの歴史や文化が受け継がれている地域にある学校です。校舎は、古賀志山の山麓に抱かれ豊かな自然に包まれています。また、子どもたちは、校庭にたたずむ樹齢約450年の「孝子桜」に見守られながら、学び生活しています。</p> <p>また、学習面でも全国学力調査の結果では、十分に評価できる効果をあげていると思われます。こうした点もホームページで公開しており、全地域から児童を募集する学校として責任を果たしています。学校経営の理念、学校経営の方針、今年度の重点目標、特色ある学校づくりに関する取組、ともに児童の学びと育ちに明確な指針を出していると思いました。</p> <p>君原小学校は、1878年（明治10年）設立で全校児童数62名（令和2年度）、歴史も学校が立地するロケーションも城山西小学校とほぼ同じような条件にあります。君原小の小規模特認校制度は、令和2年4月から6年間導入することになっています。</p> <p>そこで、君原小学校の現状と課題、今後の方向性について以下の質問をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、準備不足のままのスタートだったのではないかとの指摘もあるが、今年度から小規模特認校制度を導入した理由について</li> <li>2、今年度入学の地域外児童数や入学理由等について</li> <li>3、児童送迎が保護者の負担となっていると思われるが、送迎バス運行の実施について</li> <li>4、少人数の教育の良さを活かした特色のある教育として掲げた、それぞれのメニューの効果、児童、保護者の満足度について</li> <li>5、特に、英語教育とICT教育、プレゼン教育の推進について</li> <li>6、小規模特認校に係る学校施設整備などハード面での要望について</li> <li>7、来年度児童募集の広報等について</li> <li>8、区域指定制度の導入効果など、人口増を図る地域政策について</li> <li>9、6年間の小規模特認校制度導入終了後の取扱いについて</li> </ol>	<p>教育長 町長</p>
------------------------------	---	-------------------

令和02年08月25日受領・受付番号 4

※ 質問の趣旨は、できる限り具体的に記入願います。

※ 電話・FAX等により申し込みはできません。